

# 第64回総会報告

## 第64回総会 参加者100名

品川プリンスホテル バンケットタワーにて開催致しました。盛會にご協力頂きました事、事務局一同感謝申し上げます。



品川プリンスホテル

## 第64回総会 井原勝美会長挨拶

皆さんこんにちは。今日は約100名の参加者で、年次別テーブルで若い方もいらっしゃいますので、ぜひ世代を超えて交流されたら良いと思います。松江から4名、近畿双松会会長さんもお出で頂き5名の来賓を迎えています。また、改めての紹介ですが、前回の総会で毛利さんが本会副会長に就任されました。毛利さんは北高昭和51年卒業後東大に進まれ、国土交通省トップである事務次官に就任。昨年退任されました。毛利さんと同期の方が文芸春秋に紹介され、ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、記事を読んでもういぶん優秀な方が多いという感想でした。

さて、現在、縁あって教育関係の会社に携わり、昨今の教育に関わる課題について色々議論する機会を得ています。今、小中高の受験の内容が大きく変わろうとしているので、この場を借りて、そこで議論した内容の一端をみなさんとシェアしたいと思います。お断りしておきますが、私は教育の専門家でもなく、内容についてそう深く理解しているわけでもないで、若干表層的な話にとどまるかと思いますが、今話題になっている課題のキーワードくらいはお話ができたら良いと思っています。

まず1つ目、大学入試が変わろうとしています。これは連日マスコミに取り上げられ、新聞紙上でご覧になられているかと思いますが、2020年からその様相がやや変わってきます。一つは大学共通入試テストというのが導入され、その試験に記述試験が導入されることです。現在、全国に大学は約800校近くあり、驚くことにその過半数の大学が選択問題だけで、文章を書かずに入試の合格が決まるという実態があるようです。そうなると表現力がまったく磨かれないため、それを修正する意図です。わずかなことですが、国語と数学の一部に、記述試験が導入されるということです。これについてマスコミから強い反対もあり、例えば、採点の公平性はどうか、という話があります。と言うのも、ある一定期間で全受験生の採点をしなくてはならず、学生アルバイト

を使った採点体制を取らざるをえない状況となり、その状況で公平性が担保されるのか、という心配を投げかけられています。これはどうしても乗り越えなければならない課題ではないかと思っています。次に、もう一つ変わるのが、英語の4技能試験。それも民間試験を活用する方向です。今まで英語の試験というリーディングとヒアリングを非常に重視してきましたが、それに加え、書くことと話すこと、この四つの技能をはかる民間試験を導入しようと言うのが変化点です。私も経験しましたが、大学までは一応英語はちゃんと取ったつもりですが、実社会に出て実際に外人と話す機会では、何を言っているかさっぱりわからない、言いたいこともしゃべれない、という状況でした。それではやはり困るので、この四技能をなるべく早い段階から習得しようという教育方針が変わるということです。これについても非常に反対意見が強く、マスコミでも大きく取り上げられています。実際この四技能の試験会場を全国に何か所作るか、必要となる試験官の確保、民間試験の実施主体が明確でない状況もあります。また、それに対し高校の校長先生をはじめとして大きな反対意見があり、時期が早すぎるのではないか、もう一回考え直したらどうだという様な話になっています。

大学側もこの試験の方法をどう活用するか、ばらばらです。ある大学は積極的に活用する、またある大学はまったく参考にしないという状況があり、今その賛否両論が飛び交う状況です。文科省は現在のところ、これについてのスタンスを変えておらず、是非実施したいという状況です。これは今後どうなるかちょっと油断を許さないと思っています。

2つ目は、「STEM教育」。STEMというのはサイエンスのS、テクノロジーのT、エンジニアリングのEと数学のMですね。嫌だなあとと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、この4つに専門性を持つ人材をもっと輩出しなければならないという問題意識です。確かに今民間企業の間ではいわゆるAIとかデータサイエンスとい

われるような領域の人材が圧倒的に不足しており、企業の中でそういった領域ができる人材の再教育を多くの企業が手掛けている状況だと思います。遅まきながら教育界もそれに対応するプログラムを用意しなければならぬという問題意識が出ており、再来年から小学校でいよいよプログラミング教育が必須となり、中学・高校でもプログラミング教育のみならずいわゆるインターネットを含めた情報に関して、もう少し知見を深める教育プログラムを整備するという状況になっています。中国やインド、アメリカにくらべると圧倒的にAIやデータ解析する人が供給不足で、私はこういった領域で日本の産業の競争力は将来的に大丈夫なのか、という懸念を持っています。やや手遅れ感はあると思いますが、やっとそういった動きがこれからはじまるという状況です。

3つ目は、リカレント教育。これは我々の世代は学校を卒業して一つの企業に就職すると一生そこで勤めるのが常識的なキャリアでした。人生百年時代で、副業や転職、あるいは定年後の就職機会に非常に関心が高まっています。それに呼応する形で、誰でもいつでも再教育を受けられる教育環境を整備していくということです。つまり「就学と就労を何度も反復できる社会にしていけるべきである」という考え方があり、望めばいつでも再教育を受けられるという環境を提供していくという動きがあります。もちろんそれを受け止めるのは第一次的には大学ですが、我々は大学でのそういうプログラムはちょっとハードルが高いので、2つ紹介します。私の実体験も含めて「Coursera」と「Udemy」という機関がウェブを使った教育プログラムを提供しています。それ以外にも沢山ありますが、これは非常に使い勝手のいい、かなり効率的、効果的なWEBで、是非覗いてみられることをお勧めします。「Coursera」は、スタンフォード大学を中心とする英語の講義で下に全部スクリプトが出てきます。多少英語ができる人は、非常に面白いと思います。無料のプログラムも結構用意されています。「Udemy」は無料もありますが、殆ど有料で日本語のコースです。興味があれば、ぜひWEB教育プログラムを活用し、少し知識を横に広げ、さらに興味があるところを深めていくことに活用されたら良いのではと思います。

以上駆け足ですが、昨今の教育に関わる話題について三つ触れさせて頂きました。

最後ですが、年一回、北高あるいは松高のOBとして母校がどうなっているかと思ひ起こさせるのは(進学情報掲載)雑誌ではないかと思っています。昨今、この雑誌から松江北高という字を見つけたのが難しくなっています。新しく就任された常松校長先生には、ぜひ進学面でも松江北高を発展させて頂き、全国の普通高校の中でもきらきら輝くような高校に進化をさせて頂ければ嬉しいと思います。そういう期待を申し上げて私の冒頭のご

挨拶にかえさせていただきます。どうぞ清聴ありがとうございます。 (事務局より:本挨拶は令和1年10月19日時点の内容です。今日状況とは若干異なることをご了承下さい。)



井原勝美会長

### ●CourseraとUdemy

これらの機関がウェブを使った教育プログラムを提供しております。それ以外にもたくさんありますけれども、これは非常に使い勝手のいい、かなり効率的、効果的なウェブでありまして、是非覗いてみられることをおすすめします。

<https://ja.coursera.org/>



### ●Coursera

スタンフォード大学を中心とする英語の講義でありますけれども、下に全部スクリプトが出てきますので、多少英語ができる人だと、このコースは非常に面白いと思います。無料のプログラムも結構用意されております。

<https://www.udemy.com/>



### ●Udemy

無料もありますけどほとんどが有料で、日本語のコースです。なにか興味があれば、ぜひこういったウェブの教育プログラムを活用して、少し知識を横に広げるなりさらに興味があるところを深めていくことに活用されたいいのではないかと思います。

## 総会記念講演

# 「人生100年時代に備える」

～老いも若きも身体の持ちはお手入れ次第～

**山田 佐世子 氏** (北高17期 昭和41年卒)

【健康運動指導士、元千葉県健康生活コーディネーター、水泳&アクアフィットネスインストラクター、オークスベストフィットネス上志津パーソナルトレーナー】



山田 佐世子

私は、ゆりかごから墓場までと言われた「塊ピー2025年問題」の、皆に一番嫌われる世代です。現在1学年8ルームと校長先生が仰いましたが、当時は確か13ルームまであり、教室は壁ぎわまで50人位生徒が入り、後方におしゃべりをして遊ぶ広さはなかった思い出します。

今日、そうそうたる方がお話しされた後、高校で末席を汚していた私がお話をするのははばかられますが、先日の台風15号19号で甚大な被害があったばかりで、ご親族やお友達が被害にあわれた方に先ずお見舞いを申し上げたいと思います。また、明るい話題ではラグビーと共に、吉野彰さんがノーベル化学賞を受賞されました。新聞に「リチウム電池の博士論文を見出したのが島根県産業技術センター特別顧問の吉野勝美さん」と書いてあったので、ちょっとググってみましたら、松江高校の先輩だと分かりました。ノーベル賞の吉野さんと同じ吉野さんで今77歳。「自分が生きているあいだにノーベル賞をもらってほしいと思っていたことが現実になった」と書いてあり、とても誇らしい気持ちになりました。高校2年時、科学の山形先生が担任で、女子が7人だけの理科系クラスにいました。化学のテストで多分赤点をとった際、いつ「お前、落第でもう1回2年やれよ」と言われるか、どきどきしていた事をこのノーベル賞を機に思い出しました。今でも人生の中でとても残念だと思うのは、高校のときになぜしっかりと勉強をしなかったのか、家も学校も先生も友達も勉強一生懸命できる環境におかれていたのに、もっと本当にスタディすればよかったなど。そういう思いが吉野彰さんと同じ71歳になった今でもあります。松江北高は勉強にとってもいい環境だったなと思っています。

現在は「健康運動指導士」として、中高年の健康づくりのお手伝いをしております。「健康づくり」と言う一番気にかかるのは認知症、糖尿病予防、そして肩こり、肥満の解消をしたい等、色々と心身の不調を抱えたり、経

験された方もあると思います。10月11日の新聞に「腰痛や肩こりが各3兆円の経済的損失である」という記事を目にしました。一生の間に80%以上の方が悩まされる腰痛、その経済的損失は年間約3兆円にのぼる、と試算が出ていました。受験生から超高齢者100歳近くまで、腰が重いとかだるいとか不調の方がいらっしゃるといいます。今日は幅を広げるとポイントがほけますので、3兆円の損失を出さないためにも、私たちの老後を楽しく軽やかに過ごすためにも、腰痛対策中心にお話をさせていただきます。

今日、早くからお出での方は、ずっと座っていらっしゃいます。近年は30分～1時間、学生さんでも30分に一回は立たせようという時代です。お足元が悪い方、どこか痛くて立てない方は別ですが、とりあえず手の重さは3キロ、頭の重さも5～6キロありますので、このままの姿勢を取っていると重たくて体に良くないのです。なので、みなさんと一緒に体を動かしてから本題に入らせていただきたいと思います。たまには両手を上に上げ「バンザイ!」から手を組んでゆさゆさゆすって、頭・首・背骨・身体全体ゆすりをかけてほぐしましょう。貧乏ゆすりは関節がほぐれ、1日に何度もするといいですよ。ほぐれたところで体力チェック。両腕胸で交差して押し付け、胸からはなれないようにして、ゆっくり立ち上がれますか？次は同じように、片足で椅子から立ち上がれますか？片足立ちできない人ができましたね。人は、階段の上り下りになどにも一瞬片足で支えられないと移動できないので、片足で支えることは大事です。特に腰を守り、足腰丈夫にいつまでも歩けるように、筋トレ4つ、誰でもできる簡単なものをまとめました。『イ～チ』鼻で吸い込み、『ニ～イ』口で吐き出しながら、ゆっくりリズムをとりながら“ゆっくり筋トレ”を実行継続してください。(『転ばぬ先の杖を作ろう!』参照)

歳をとれば筋力は誰でも低下しますが、身体を動かしたら栄養補給のために野菜たっぷり、魚や肉、大豆、乳製品をしっかり摂って、毎日の食事からも体力をつけていきましょう。

健康づくりのお話は聴いただけでは、何の役にも立ちません、是非実行していただけることを願っております。



山田佐世子さんよりメッセージ

## 「松江北高・学び舎の思い出」

お遊戯した講堂、友と机を並べた教室、夏中泳いだプール、汗だくで走った校庭などに足を踏み入れれば、佇まいが多少変わっていても、先生や友達の顔が浮かび、昔の記憶が甦ってくることだろう。高校を出てから50年以上の歳月が経っているのだから、校舎の移転、建て替えも当然のことである。かつて通った幼稚園から小学校・中学校・高校は存続しているのだが、松江北高が現在の場所に移転した時に、それら全てが別な場所に移ったことになった。故郷の学び舎を喪失した。たまの帰省で、かつて通った学校の横を通ってみたり、校舎に佇んでセピア色の思い出に浸る楽しみがなくなってしまったのは寂しい。

だが、通学したことはない現在の松江北高校は、懐かしい場所だ。私の実家は北高、通称『赤山』の下、石橋町から登る通学路にあり、当時は松江第一中学校だったが、学校の庭は小学生であった私達の恰好の遊び場だった。そびえる二本松の円形階段を上ったり、校舎の後ろにあった笹薮に忍び込んだり、友達としょっちゅう坂道登って行っていた。細かい赤土にまみれて遊んだ。学校に出入り自由なのんびりした時代だったんだなーと思う。放課後の校庭では陸上部や野球部などが部活していたのだが、子供心には中学生よりもずっと年長のお兄さん、お姉さんに映っていた。

また中学校で水泳部だった私は、県大会に向けて松江市代表選手の合同練習があり、夏休みには当時作られた各中学のプールを持ち回りで移動し、炎天下遠い四中にも自転車走らせたり、一中でも泳いだ経験がある。プールは校庭正面にあった。あの場所は、今の仕事に繋がっていった水しぶきの思い出も刻んでくれた。

母の生前、里帰りした時に娘を連れ、春日神社から北高へと奥谷町を散歩したことがある。裏側から急な石段を昇った。子供の頃の記憶では広い大きな校庭が目に入るはずだったが、手狭な感じがした。もちろん学び舎としての思い出は皆無である。



城見縄手から坂を上ると、正門に至る。その横に同期の彫刻家・西村文男さんの作品が卒業生から寄贈されたと聞き、足を運んだ。優しい作風に心が和み、去り難かった。家族が皆亡くなり、故郷の色合いが変わってしまい足は遠のいたが、友に会いにまた帰ろう!その折には松江北高校は是非訪ねてみたいところのひとつである。

# 懇親会 ミニ・リサイタル

## 岩井翔平【H22年卒】

エンターテインメントは、現在テノール歌手として活躍中の岩井翔平さんによるミニ・リサイタルを楽しみました。



Photo ——— 懇親会の様子



Photo

## 懇親会の様子

卒業期毎のテーブルで昼食会を兼ねて、  
歓談のひと時を過ごしました。



最前列の主賓席左から、双松会幹事長金平憲様、松江北高校長常松徹様、東京双松会会長井原勝美、東京双松会副会長毛利信二、北高校内幹事足立芳樹先生、双松会副会長泉雄二郎様、近畿双松会会長 松本耕司様



## 第64回総会 毛利信二副会長挨拶

みなさんこんにちは、ご紹介をいただきました、北高27期・理数科6期卒業の毛利と申します。東京双松会の副会長を仰せつかりましたので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、今年度も重なる台風で大きな被害が出ております。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りし、被災されたみなさまにお見舞いを申し上げます。昨年の夏、平成最悪の豪雨災害となりました西日本豪雨災害に対して、国土交通事務次官として、被災者の救出・救命や施設の応急復旧、避難所に入られた方々の生活支援などに全力であたっていました。しかし、再び今年もこういう大きな被害が発生してしまい、「天災は忘れたころにやってくる」と申しますが、「忘れる間もなくやってくる」と言ったほうが良いくらいです。近頃雨の降り方が変わって来たとお感じの方もいらっしゃると思いますが、実際、非常に強い雨、バケツをひっくりかえたような雨とでもいまいしょうか、時間雨量にして50ミリ以上、こういう強い雨が降る量が5年前に比べて4割も増えておりますし、全国の市町村の約9割には土砂災害の危険区域があり、活動している111の活火山に、見つかるだけでも2000の活断層がある我が国は、いわば危険と隣り合わせということかもしれません。国や自治体も一生懸命対策に取り組んでいるのですけれども施設整備が追いつかないところもあります。この上は、やはり市民一人一人が確実に避難できる、命だけは守られるような、社会全体でそういう態勢に変わっていかねばいけないんじゃないかと考えているところであります。

さて、私事で恐縮ですが、この3月に、前の小山校長先生に招かれて、母校北高になんと卒業以来初めてうかがって、1年生2年生相手にお話をしてみました。110分というかなりの長時間、生徒のみなさんあの体育館に体育座りしたままで…途中疲れて、トイレに行ったりとか、かなり昔だったらタバコ吸いにいった人もいたでしょうと思うんですけど、そういう生徒さん一人もいなかったものから、驚きました、あまりおもしろい話でもなかったと思いますが、最後まで熱心に聞いていただき、そして立派な感想をあとで寄せていただいて、むしろこちらが感激をしたくらいでした。改めて、さすが北高だと感じました。そして、話のタイトルは「北高生に期待する」としたのですが、終わってみれば、改めて北高生に期待したいな、としみじみと感じた次第でございました。



毛利信二副会長

まもなく新天皇の即位の儀式がございます。ぜひみなさまと一緒に喜び、そして令和の時代になりましたので災害が多かった平成を振り返って、今度こそ穏やかな平和な年になりますように、みなさまとともに祈りたいと思います。余計なことながら、「五風十雨」という言葉があります。五日にっぺん風が吹き、十日にっぺん雨が降る、ごく当たり前の状況、すなわち穏やかな状況をいう言葉だそうです。ぜひ五風十雨の時代になりますようにというふうに、お祈りしたいと思います。

最後にお忙しい中多くのご来賓にお越しいただきました本当にありがとうございました。そして実は台風の直前でありながらこの総会の準備に関わっていただいた幹事のみなさん本当にありがとうございました。何より今日お足元が悪い中ではありましたがこうして大勢のみなさん、会員のみなさんにお越しくださりましたこと本当に感謝申し上げます。皆様のますますのご健勝とご発展、そして我が母校松江北高のさらなる発展と、そしてこの東京双松会のいやさかを祈念致しまして、簡単ですが締めのご挨拶とさせていただきます。どうも本日は誠にありがとうございました。



## 活 動 報 告

### 第10回 .....October..... 2019/ 10/29 TUE 東京双松会ゴルフコンペ

参加者8名。いつも当コンペは雲一つない最高の秋晴れに恵まれます。この日も素晴らしい日でした。

表彰式、パーティーも大変和やかに、楽しい一日を過ごしました。結果は、今回も井原勝美会長(昭和44年卒)が優勝。手抜き無しの本気の部活動の様相ですが、ゴルフ好きの方々は勿論、初心者の方も優しい先輩方の指導付きで、とても楽しい会です。高校時代の部活を思い出して是非ご参加下さい!

東京双松会ゴルフ部 幹事 高根 護康 (S55年卒)



女性の部優勝  
山崎 寿子さん (H5年卒)



### 2019年 .....December..... 2019/ 12/11 WED 忘年会開催

東京プレジュー倶楽部青山サロンにて開催。14名参加。食事の後、今話題の「人生会議」の一環として「もしバナゲーム」を行いました。

中高年男性10名2グループでの開催は実に異例です。「もしも余命半年」と言われたら、残された時間に何をするのか?というテーマ。自身の価値観と生き方を見つめるカードゲームです。自分の捨てた「価値観」を他者が拾うという、個人の尊厳についても考えます。お酒も入ってリラックスしながら有意義な時間だったと思います。(報告:嵯峨崎)

